

### 【概要】

当院には臨床倫理委員会があり、1) 未承認および適応外の医薬品・医療機器の臨床使用 2) 新規手術および何らかの問題がある臓器移植の臨床的適応 3) その他の臨床の諸問題を申請することで審議されている。しかし、患者に関わる倫理問題の審議は、わずかな件数であった。臨床倫理委員会は、専門性の高い教授および各部の部長で構成され、病院としての態度を決定する場である。現場の職員が、日常的に遭遇する倫理的問題を相談する場としては敷居が高く、タイムリーな対応とフィードバックを受けられない。現場には日常的に遭遇する倫理的な問題が多く潜在しているにもかかわらず、相談し適切な支援を得られる窓口がない。そこで、臨床倫理委員会の下部組織として倫理コンサルテーションチームを立ち上げた。平成28年9月に発足し職員への周知活動を行い、5ヶ月で14件の相談件数があった。

### 【背景】

私は副看護部長として、2年前より医療の質・安全対策部に出向している。安全管理室には、医療事故の発生とは無関係に、看護師だけで解決困難なジレンマや、医師からの倫理的な相談が、多く持ちかけられることに気付いた。一方、当院には臨床倫理委員会があり、そこでは、1) 未承認および適応外の医薬品・医療機器の臨床使用 2) 新規手術および何らかの問題がある臓器移植の臨床的適応 3) その他の臨床の諸問題を申請することで審議されている。しかし、平成20年から平成28年の5年間に審議された患者に関わる倫理問題は、わずか6件であった。臨床倫理委員会は、専門性の高い教授および各部の部長で構成され、病院としての態度を決定する場である。現場の職員が、日常的に遭遇する倫理的問題を相談する場としては敷居が高く、タイムリーな対応とフィードバックを受けられないことが、件数の少なさの原因と推察される。現場には日常的に遭遇する倫理的な問題が多く潜在しているにもかかわらず、そのような問題を相談し、適切な支援を得られる場がないことが、当院の課題であると考えられた。そこで、臨床現場で、個人で解決困難な倫理的問題に対し、相談できる窓口を作り、職員のジレンマや患者の倫理的問題がタイムリーに報告、相談でき多職種で話し合う風土を形成したいと考えた。また、職員の倫理的感受性が養われ、医療を行う上で安心に繋がり延いては医療の質の向上の改善となることも期待できる。

### 【実践計画】

目標：倫理コンサルテーションチームの組織を構築する

実践計画：

- ・近隣の他施設ですでに倫理コンサルテーションチーム活動を行っているカンファレンスに参加しイメージ化する。
- ・企画書を作成し、病院上層部へ倫理コンサルテーションチームの立ち上げの必要性和、得られる効果を説明し賛同と許可を得る。(病院長、臨床倫理委員会委員長、看護部等)
- ・各部署よりチームのメンバー選出依頼をする。
- ・設置規程作成を院長付け弁護士に依頼し院長決済を得る。
- ・倫理コンサルテーションフローチャートと、職員向けの配布ポスターを作成。
- ・各種委員会、連絡会にて広報活動実施。
- ・倫理コンサルテーションチームメンバーの学習会開催
- ・倫理コンサルテーションチームキックオフミーティング。

## 【結果】

医師、看護師、倫理学者、弁護士、臨床心理士、MSW、事務等 19 名でチームを結成し、平成 28 年 9 月に発足した。倫理コンサルテーションチームへの相談内容は、終末期医療に関するもの、透析非導入、自由診療との併用、心筋梗塞で緊急に治療の必要な患者の入院の拒否、妊娠中の精神科患者の拒薬等 5 ヶ月で 14 件であった。そのうち 9 件は相談者を交えた倫理コンサルテーションチーム検討会を開催し、5 件は医療の質管理室のスタッフで相談内容について方向性を提案した。また、ほとんどは医師からの相談が多かった。今回特に重要と判断した相談内容は上部組織の臨床倫理委員会にて審議を受けることとしていたがそのような事例はなかった。

## 【評価及び今後の課題】

組織の仕組みを構築し、倫理コンサルテーションチームが活動し始めたことで現場の倫理問題にタイムリーに支援できる体制が整ったと考える。これまでの相談件数やその内容から職員へのチームの存在を周知もされてきつつある。しかし、相談者の中には、病院としての判断や指示、答えを求め、チームの本来の目的である医療において生じる倫理的問題を、患者・家族と現場の医療者らが解決するのを支援するものであることが周知されていないと感じる。また、支援した事例を振り返ると、チームメンバーのスキル向上のため自己研鑽が必要であると感じる。今後の課題は気軽に倫理問題が相談できるチームであるよう信頼感を相手に与えるチーム作りをめざし、相談した側の満足度や、倫理相談の蓄積と内容の分析から実施した支援の質を評価するツールを検討することが課題である。